

自由記載より

【感染した場合の不安】

- ◆サービス業をしているので、毎日多くのお客様と接触するので心配です。
- ◆自分が感染して入院することを考えると子供をどうしたら良いか不安です。
- ◆子ども（9歳児）の（私がコロナに感染時に）病院が受け入れてくれず困りました。

【仕事・減収】

- ◆収入が無くなり仕事も見つからずに困っています。今日生きるのも大変です。
- ◆失業した、この先がとても、不安だ。
- ◆12月末にコロナの影響で派遣雇用契約が終了し無職になりました。現在仕事を探しておりますが未だ就業先は見つかっておりません。
- ◆倒産するので1月末で退職してほしいと言われました。大学生の息子と中学2年生の娘の今後の生活が不安です。

【経済面】

- ◆副業もして家計を支えています。イベントの仕事の副業はコロナの影響でめっきり減ってしまい、他の副業も検討しています。
- ◆中学生の制服がブレザーになり全てそろえると10万ぐらいかかり大変です。
- ◆昨年、病気を発症したのと、コロナ禍での時短休業で働くこともままらなくなり生活費、学費、家賃で困窮しています。

【手当・給付金】

- ◆愛知県遺児手当が6年目以降0円になってしまうのはとても不安です。
- ◆児童扶養手当の子供の1人目と2人目以降の金額の差が大きいと感じます。

【子どもの預かり・子どもの学習】

- ◆中学生（中2）がいますがコロナで学校が休みのうめあわせで授業が早く進んでついていけないです。市がやっている塾のサポートを受けているが緊急事態宣言が出たのでサポートもなく学習面でとても困っています。
- ◆子供が重度知的障害のため、コロナでデイサービスが自粛になり、預け先がなくなりとても困りました。1人で留守番ができないため、見てもらえないと、勤務ができないからです。
- ◆保育園でコロナ感染者が出たため保育園が休みになり預け先がないため仕事を休まなくてはならなかった。

【ストレス】

- ◆閉塞感がコロナにより増して、不安感恐怖感・ストレスで眠れない。
- ◆コロナ禍もあり、もともと心もとない生活だったのが、不安定な先行き感が増している。
- ◆この先、いつ仕事がなくなるか不安な毎日です。先行の不安からなのか不眠症になり、安定剤を飲まないと寝れなくなりました。

【子の不登校・病気】

- ◆コロナ感染や収入減も大変ですが、上の子は高校卒業後の就職先が未定、下の子が昨年コロナ休暇以降不登校になり、不安やストレスで毎日辛いです。
- ◆子供が去年から不登校になり精神的まいっている。

【相談】

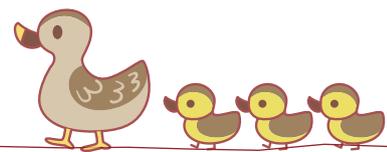
- ◆近くに親戚が居ないため、父子家庭だと怪我や病気時に頼れる人がいないので不安です。
- ◆誰も頼れる人がいません。
- ◆不安事を心をひらいて話せるひとがいない。

【養育費】

- ◆養育費の取り立てを迷っている。
- ◆養育費が少ない事がこの先不安。

【スマイル BOX 支援】

- ◆今回コロナ禍で気分も落ち込みがちなか中、「スマイルBOXプレゼント」を知り、子どもと共に少しでも笑顔になればと思い応募させていただきました。
- ◆この度、息子の学校からのチラシと、新聞にこの件が載ってました。この状況の中、手を差し伸べて頂けることに感謝します。例え抽選にもれたとしても、この事業を立ち上げてくれて、有難うございました。
- ◆新聞で初めて知りましたので応募させていただきました。進学後の学費も不安があります。こういった支援は母子家庭には助かります。
- ◆この度はこのような支援を企画いただき本当にありがとうございます。このような企画があるだけで世の中から見捨てられてないと思い、少し心が楽になります。



あとがき

国の統計などに等しく、「契約社員や非常勤・パート・アルバイト」の非常勤雇用の割合は5割を占め、不安定な雇用形態のひとり親が多いことがわかります。

そして、未曾有の災禍の中、経済が止まると真っ先に、不安定な雇用形態の者に影響が出たようで、「仕事がなくなった・仕事が減った」が5割を占め、「収入がなくなった・収入が減った」が6割を占めるという悲惨な状況となっています。

仕事が減ったり、収入が減ったり世帯が多く占める中、出費が増えたが8割弱ありますので、コロナ禍で、困窮度が更に増しているひとり親家庭が多いことが読み取れます。

コロナ禍第3波の緊急事態宣言下でのアンケートで、学校は休校とはなりませんでしたが、子どもの居場所・預かりについて「困ったことがあった」が4割弱ありました。

また、子どもの学習について「困ったことがあった」6割弱ありました。自由記述から考察するに、塾代が払えなくなった。休校時を期に学校に行けなくなった。休校時を境に更に学校の勉強についていけなくなった。等がいくつもありますので、コロナ禍の影響が大きいと思われる。

そして、コロナ禍で、「自分のストレスが増えた」が8割を超え、「子どものストレスが増えた」が7割を超えています。

ストレスを抱える状況もひとり親ひとりで、自分のストレス、子どものストレスに対処するケースが多いと推察されます。相談する人が身近にいない。等の自由記述もありますので、今後益々ひとり親家庭の相談窓口の機能強化に努めていきたいと考えております。

コロナ禍終息はまだまだほど遠く、収束にも時間がかかる状況にあると思われるので、今後とも愛知県母子寡婦福祉団体としては、職員一同、感染対策に充分配慮して、学びの機会をなくさないように、就業支援講習会始めセミナー研修会、養育費相談、法律相談、就業支援、職業相談、職業紹介に、「今後の困りごと」に対しても、アンケート結果を踏まえて、寄り添い型支援を強化していきたいと思っております。